

令和5年度  
第3学年



# 授業シラバス 年間指導計画

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、  
技術家庭(技術科・家庭科)、英語  
道徳、サイエンス

教科名	年間授業時数	学年
国語	195	3
授業形態	指導者名	
一斉授業	筒井 梨紗 中河 舞	

教科書（発行所）	中学校国語3（東京書籍）・中学校書写（学校図書）
教科書以外の教材（発行所）	中学必修テキスト3（文理） 単元別漢字3（秀学社） ウイニングPLUS中学校問題集国語3（好学出版） 意味から学ぶ頻出漢字3000（第一学習社） 国語便覧（浜島書店）

目 標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	○知識及び技能 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ○思考力、判断力、表現力等 ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。		
定期考査	出題方針	教科書の内容と発展学習の内容を中心に出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	「生命は」「二つのアザミ」「俳句の読み方、味わい方」「俳句五句」「形」「和語・漢語・外来語」
		第2回考査	「行書と仮名を書こう」「百科事典少女」「評価しながら聞こう」「間違えやすい敬語」「熟語の構成・熟字訓」「絶滅の意味」「恩返しので井戸を掘る」「万葉・古今・新古今」
		第3回考査	「行書と仮名を書こう」「幸福について」「編集して伝えよう」「連語・慣用句」「四字熟語」「初恋」「観察・分析して論じよう」「おくのほそ道」
		第4回考査	「場面に応じて話そう」「論語」「何のために「働く」のか」「曖昧な文」「送り仮名」「故郷」
学年末考査	「行書と仮名を書こう」「紛らわしい漢字」「間違えやすい言葉」「レモン哀歌」「生まれめんなかな」「いつものように新聞が届いた」「最後の一句」		
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	毎日の漢字テストに粘り強く取り組み、言葉の力の基礎を身につけていきましょう。予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理してみましょ。また、各教材末に置かれている「学びの扉」や授業中に配付されるプリントの問題を考えてみましょう。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すだけではなく、授業中の他の仲間の発言にも注意して、ノートに残すようにすると、自分の考えを広げることができます。 復習として、その日のうちに再度、教科書やノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておく、授業の内容を定着させることができます。古典分野では、覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を丁寧におこないましょう。 なお、課題として配付している問題集は、解答の根拠となる箇所を線を引くなど見える化し、答え合わせの際には解説をよく読み込み、理解を深めることを大切にしましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「生命は」	2	・効果的な表現に注意して内容を解釈し、読み方を工夫して音読する。
		「二つのアザミ」	3	・読み取ったことをもとに、言葉と自分自身との関わりについて考えをもつ。
		「俳句の読み方、味わい方」、「俳句五句」	4	・表現の工夫に注意しながら情景や心情を想像し、俳句を読み味わう。
	5	「俳句を作って句会を開こう」	2	・俳句を作って互いに読み合い、作品のよさを評価する。
		「形」	4	・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係を捉えて、作品を読み味わう。
	6	「和語・漢語・外来語」	1	・和語・漢語・外来語の特徴について理解する。
		《第1回考査》		
		◎「行書と仮名を書こう」	6	・行書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
	7	「百科事典少女」	5	・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係を捉え、作品を読み味わう。
「他教科で学ぶ漢字(1)」		1	・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。	
「評価しながら聞こう」		3	・話の内容や表現の仕方を評価しながら聞き、自分の考えを広げる。	
8	「間違えやすい敬語」	1	・間違えやすい敬語と、正しい敬語の使い方について理解し、適切に使う。	
	「熟語の構成・熟字訓」	2	・熟語の構成や熟字訓について理解し、漢字を文や文章の中で使う。	
	「絶滅の意味」	5	・論の進め方や説明の仕方について考える。	
9	「恩返しと井戸を掘る」	3	・読んだ本について感想を交換し、知識を広げ、自分の考えを深める。	
	「万葉・古今・新古今」	5	・和歌の意味や使われている技法に注意して、鑑賞文をまとめる。	
	《第2回考査》			
後期	10	◎「行書と仮名を書こう」	6	・行書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
		「幸福について」	5	・文章を読んで自分の考えを持ち、議論の仕方を踏まえて話し合う。
		「編集して伝えよう」	6	・伝える目的や内容に適した文章の種類を選択し、構成を工夫して書く。
	11	「連語・慣用句」、「四字熟語」	4	・連語や慣用句、四字熟語について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
		「初恋」	2	・表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。
		「観察・分析して論じよう」	5	・論の進め方を考え、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。
	12	「おくのほそ道」	5	・構成や表現の特徴と、その効果について考える。
		《第3回考査》		
		「場面に応じて話そう」	4	・場の状況に応じて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。
1	「論語」	6	・古典の言葉を読み味わい、自分の文章に生かす。	
	「何のために「働く」のか」	5	・読書を通して自分の生き方や社会との関わり方を考え、自分の将来について考えをもつ。	
	「曖昧な文」、「送り仮名」	2	・文の成分の順序など文の構成と、送り仮名の付け方について理解する。	
2	「故郷」	7	・作品を読んで考えを深め、社会の中で生きる人間について、自分の意見を持つ。	
	「他教科で学ぶ漢字(2)」	1	・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。	
	《第4回考査》			
3	◎「行書と仮名を書こう」	6	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列に注意して書く。	
	○百人一首	5	・百人一首を通して、伝統文化を尊重する態度を育てる。	
	「紛らわしい漢字」	1	・形や音の似た、紛らわしい漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。	
4	「間違えやすい言葉」	1	・読み間違えたり書き間違えたりしやすい言葉について理解し、文章の中で使う。	
	「レモン哀歌」	1	・効果的な表現に注意して詩を読む。	
	「生ましめんかな」	2	・詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。	
5	「いつものように新聞が届いた」	4	・情報やメディアの意義について考えを深める。	
	「最後の一句」	4	・文学作品を読み、人間や社会について考える。	
	《学年末考査》			
6	「話し合いで意見をまとめよう」	5	・進行の仕方を工夫したり、お互いの意見を生かしたりして話し合い、合意を形成する。	
	「今の思いをまとめよう」	5	・下書きした手紙を読み返し、文章を整えて清書する。	
	発展学習 評論文・小説読解	10	・様々な文章を読み、読み取り方や文章構成について確認する。	
7	古典演習	10	・古典作品を読み、表現技法や文法事項について確認する。	
	演習	35	長文読解や小論文の記述、ディベート・ディスカッション等を行う。	
	総時間数	195		

教科名		年間授業時数	学年
社会科（歴史的分野および公民的分野）		156	3
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		中川一輝	

教科書（発行所）	新しい社会歴史（東京書籍） 新しい社会公民（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	公民資料集（東京法令） 実練テキスト（文理），公民ワーク（学宝社） 他

目 標	<p>（歴史的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的事象の学習を通して，時代を大きく捉える見方・考え方を身につける。また，各時代の政治のしくみ，人々の生活，文化を多角的に捉えられる力を養う。</li> <li>・課題に対し，自ら調べ，対話を通して課題を解決する方法を身に付ける。</li> </ul> <p>（公民的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代日本の特色として少子高齢化・情報化・グローバル化などが現在と将来の政治，経済，国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察する。</li> <li>・対立と合意，効率と公正，分業と交換，希少性などに着目して課題を追求したり解決したりする活動を通して，市場の働きと経済をとらえる。</li> <li>・地理・歴史の学習をもとに，現代社会の特色と問題点をとらえる。</li> <li>・持続可能な社会を形成することに向けて，社会的な見方・考え方を働かせ，課題を探求する活動を通して，自分の考えを説明・論述する。</li> </ul>		
学習のねらい	<p>（歴史的分野）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各時代の歴史的事象を説明することができ，その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。</li> <li>②歴史的事象の中から，地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身につける。</li> </ol> <p>（公民的分野）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>③個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに，諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</li> <li>④社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。</li> <li>⑤現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。</li> </ol>		
定期 考 査	出題方針	教科書の内容，使用している副教材の内容から出題する。	
	(予定)	第1回 考査	・近代（後半）の社会
		第2回 考査	・現代社会と私たち ・個人の尊重と日本国憲法
		第3回 考査	・現代の民主政治と社会
		第4回 考査	・私たちの暮らしと経済
学年末 考査		・地球社会と私たち	
評価の観点・ 評価の方法	<p>①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度</p> <p>上記3項目について，授業への取組（ノート・発表等），自主学習，レポート，単元テスト，定期考査の結果で総合的に評価する。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法，授業の受け方，ノートの取り方など)	<p>様々な出来事や課題を図や資料，グラフなどから考え，理解していく力をつけていきましょう。また，知識の定着だけではなく，自分の言葉で説明できる力や問題に何度も挑戦する力をつけていきましょう。</p>		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・近代(後半)と現代の日本と世界①	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸幕府の滅亡</li> <li>明治維新の諸改革</li> <li>立憲制国家の成立</li> <li>日清・日露戦争</li> <li>第一次世界大戦と日本・帝国主義</li> <li>大正デモクラシー・世界恐慌</li> <li>ファシズムの台頭</li> <li>軍部の台頭と満州事変</li> <li>日中戦争・太平洋戦争</li> <li>本土空襲・日本の降伏</li> <li>占領体制・日本国憲法と民主化</li> <li>冷戦と世界のように・高度経済成長期・冷戦の終結・21世紀の世界</li> </ul>
	5	・近代(後半)と現代の日本と世界②	18	
	6	《第1回考査》 ・近代(後半)と現代の日本と世界③	19	
前期	7	1 現代社会と私たち  2 個人の尊重と日本国憲法 《第2回考査》	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会の特色(グローバル化・少子高齢化・情報化)</li> <li>私たちの生活と文化</li> <li>現代社会の見方や考え方</li> <li>人権と日本国憲法</li> <li>人権と共生社会</li> <li>これからの人権保障</li> </ul>
	9	3 現代の民主政治と社会 《第3回考査》	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の民主政治</li> <li>国の政治の仕組み</li> </ul>
				・地方自治と私たち
後期	10	4 私たちの暮らしと経済	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活と市場経済</li> <li>生産と労働</li> <li>市場経済の仕組みと金融</li> <li>財政と国民の福祉</li> <li>これからの経済と社会</li> </ul>
	11	5 地球社会と私たち 《第4回考査》	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会の仕組み</li> <li>さまざまな国際問題</li> <li>これからの地球社会と日本</li> </ul>
	12	*よりよい社会を目指して	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>進むグローバル化の中で発生する国際的諸課題を理解し、日本の果たすべき役割を考える。</li> <li>地理的分野、歴史的分野をもとにして、系統的な考察を通して、現代の社会を見直し、各自の考える持続可能な社会とはどのような社会なのかを考えまとめる。</li> </ul>
1	*社会的な課題の探求①	17		
2	*社会的な課題の探求②  *社会的な課題の探求③ 《学年末考査》			
	3	・高等学校の社会科学学習にむけて	3	・高等学校の学習を知る。
		総時間数	156	

教科名		年間授業時数	学年
数学		195	3
授業形態		指導者名	
習熟度別による少人数授業		板野正幸、松本拓磨	

教科書(発行所)	新しい数学3	(東京書籍)
教科書以外の教材(発行所)	体系数学2 幾何編	(数研出版)
	体系問題集数学2 幾何編 発展 完成ノート	(数研出版)
	数学I	(数研出版)
	4プロセス数学I 完成ノート	(数研出版)

目 標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>1 「数と式」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul> <p>2 「図形」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図形の性質を三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。</li> <li>観察、操作や実験などの活動を通して、三平方の定理を見いだして理解しそれらを用いて考察することができるようにする。</li> <li>平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul> <p>3 「関数」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。</li> </ul>		
定期考査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	円、三平方の定理
		第2回考査	三平方の定理、数と式
		第3回考査	数と式、集合と命題
		第4回考査	集合と命題、2次関数
年度末考査		2次方程式と2次不等式、中学校3年間で習った内容	
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査、授業への取り組み、章末テスト、小テスト、提出物の状況等から総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間、放課後等を利用して質問にくることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。授業ノートや授業プリントについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいように工夫してみましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	円周角の定理	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>円周角の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めたり、図形の性質を考察したりすることができるようにする。</li> <li>円周角の定理の逆を利用して、4点が1つの円周上にあるかどうかを判断したり、図形の性質を考察したりすることができるようにする。</li> <li>円周角の定理を利用して、円の接線に関する問題を解決することができるようにする。</li> <li>方べきの定理を利用し、問題解決ができるようにする。</li> <li>三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができるようにする。</li> <li>三平方の定理の逆を利用して、直角三角形を見つけることができるようにする。</li> <li>三平方の定理を利用して平面図形のいろいろな線分の長さを求めることができるようにする。</li> <li>三平方の定理を利用して空間図形のいろいろな線分の長さを求めることができるようにする。</li> <li>整式を同類項でまとめたり、降べきの順に整理したりすることができるようにする。</li> <li>公式を利用して、式の展開、因数分解ができるようにする。</li> <li>平方根についての四則計算や2重根号の計算ができるようにする。</li> <li>不等式の性質を理解し、1次不等式、連立不等式、絶対値を含む方程式・不等式を解くことができるようにする。</li> <li>集合に関する基本的な用語・記号を理解し、共通部分と和集合を求めることができるようにする。</li> </ul>	
		円周角の定理の逆	2		
	5	円の接線	5		
		方べきの定理	3		
		章末問題	6		
			三平方の定理		4
			三平方の定理の逆		2
			《第1回考査》		
	6		三平方の定理と平面図形		15
			三平方の定理と空間図形		10
		章末問題	6		
7		整式の加法と減法	3		
		《第2回考査》			
8		整式の乗法	4		
		因数分解	7		
		実数	3		
9		根号を含む式の計算	5		
		不等式の性質	2		
		1次不等式	4		
		絶対値を含む方程式・不等式	8		
		章末問題	7		
		集合	5		
後期	10	命題と条件	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>命題・必要条件・十分条件・逆・対偶・裏などについて理解し、背理法を利用して証明ができるようにする。</li> <li>2次関数について、そのグラフを理解し、表すことができるようにする。</li> <li>2次関数の最大値・最小値について理解、活用することができる。</li> <li>2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができるようにする。</li> <li>2次関数のグラフを利用して、不等式を解くことができるようにする。</li> </ul>	
		《第3回考査》			
	11	命題とその逆・裏・対偶	7		
		命題と証明	5		
		章末問題			
	12	関数とグラフ	3		
		2次関数のグラフ	9		
		2次関数の最大・最小	10		
		2次関数の決定	8		
			《第4回考査》		
1	2次方程式	5			
	2次関数のグラフとx軸の位置関係	7			
2	2次不等式	10			
	章末問題	7			
		《学年末考査》			
		3年間のまとめ	10		
		総時間数	195		

教科名		年間授業時数	学年
理科		156	3
授業形態		指導者名	
一斉授業		奥野 晃司	

教科書(発行所)	未来へひろがる サイエンス3 (啓林館)
教科書以外の教材(発行所)	実力錬成テキスト3年

目 標	<p>自然の事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成する。</p> <p>(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>		
学習のねらい	<p>[生命] ○実験・観察を通して、生命の連続性について理解を深め、生命を尊重する態度を育てる。</p> <p>[地球] ○地球と宇宙に関する探究的な学習を通して、地球の自転・公転と天体の動きと関係や太陽系と恒星の特徴について理解を深めさせる。</p> <p>[物質] ○化学変化とイオンに関する探究的な学習を通して、水溶液の電気伝導性や電池のしくみ、中和反応についての理解を深めさせる。</p> <p>[エネルギー] ○物体の運動エネルギーに関する探究的な学習を通して、力の合成・分解、運動の規則性、エネルギーへの理解を深めさせる。</p> <p>[環境] ○日常生活と関連付けながら、自然界のつり合いや、自然環境の調査と環境保全、地域の自然災害、さまざまな物質とその利用、科学技術の発展を理解するとともに、それらについて調べ、科学的に考察する技能を身に付けさせる。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	生物の連続性(体細胞分裂と減数分裂、生殖、染色体とDNA、発生のしくみ、遺伝のしくみ) 化学変化とイオン(水溶液とイオン)
		第2回考査	化学変化とイオン(電池のしくみ 化学エネルギー アルカリと塩 pH 酸と金属の反応 中和とpHの変化)
		第3回考査	運動とエネルギー(物体の運動 運動と力 落下運動 自由落下の法則、運動の3法則 力学的エネルギーと弾性エネルギー・運動方程式・仕事)
		第4回考査	地球と宇宙(地球の運動と天体の動き 惑星と恒星 月の満ち欠け 宇宙の広がり)
学年末考査	自然と人間(自然界のつり合い 人間と環境 自然と人間のかかわり 科学技術と人間 科学技術の利用と環境保全)		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、自然事象への理解と科学的に探求するための技能、科学的に探求するために必要な思考・判断・表現、主体的に自然の事象に関わる態度の3項目とする。</p> <p>○評価の方法は、学習のまとめりごとの記述内容と定期考査、授業への取り組みのようす、課題の提出などをもとに、総合的に行う。また、章ごとに自己評価を行う。</p>		
先生からアドバイス	<p>理科の学習は、自然の事物・現象のなかに隠れている「理」について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。また、実験・観察を通して得られたことを図やグラフを描いて事実合うように考察し発表する態度を身に付けることも大切です。</p>		



年間授業計画表

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前 期	4	「生命」生命の連続性 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 生物の成長とふえ方 ※細胞のつくりとはたらき ※体細胞分裂と数分裂のしくみ 2章 遺伝の規則性と遺伝子 ※DNAと染色体 ※いろいろな遺伝 ※遺伝の法則 3章 生物の種類の多様性と進化 力だめし (1)	(24) 11 8 4 1	○卵細胞と精子、5種類の動物の親子、染色体の顕微鏡写真をもとに、親から子への生命のつながりが広く生物界で起こっており、今、わたしたちがいることはどういふことかを改めて思い起こさせ、生命はつながっているということへの関心を高めさせる。 ○細胞のつくりを思い起こさせ、種子から根ののびる様子を観察させたり、細胞分裂の観察を行わせたりして、生物の成長を細胞の分裂と関連づけてとらえさせる。	
		「物質」化学変化とイオン 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 水溶液とイオン ※原子の構造と同位体 ※電子配置とイオン ※さまざまな結合 ※物質質量 ※元素の周期表 2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリと塩 力だめし (1)	(34) 1 15 7 10 1	○生徒にとって意外性のある果物電池でモーターが回っている写真を大きく提示し、電池をより身近なものとしてとらえさせる。さらに、探究活動を設定し、科学の方法の一例を提示する。 ○水溶液に電流を通す実験を行い、水溶液には電流を通すものと通さないものがあることを見いださせる。次に電気分解の実験より、イオンの存在を見いださせ、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解させる。また、電池の実験を行い、電池は化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることに気づかせるとともに、イオンのモデルを用いて電池の原理が説明できるようにする。 ○酸やアルカリの水溶液を用いた実験を行い、酸やアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを見いださせるとともに、電離の様子をイオンのモデルを使って説明できるようにする。次に、中和反応の実験により、酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを見いださせるとともに、中和反応をイオンのモデルを使って説明できるようにする。	
	6	「エネルギー」運動とエネルギー 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 力の合成と分解 ※三角関数 2章 物体の運動 ※運動の第三法則 ※いろいろな運動 3章 仕事とエネルギー ※エネルギー保存の法則 ※仕事量 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用 力だめし (1)	(38) 1 11 10 8 3 4 1	○作図によって合力を求めることができるようにする。次に、分力の求め方を理解させる。 ○いろいろな物体が運動を始めるときのストロボ写真を紹介し、運動が始まる原因を考えさせることにより、運動とエネルギーの学習への興味・関心を高めるようにする。 ○記録タイマーやストロボ写真をもとに、物体の速さや運動の様子を調べる方法を身に付けさせ、物体にはたらく力と運動との関係を理解させる。 ○仕事の量の求め方を理解させ、仕事の原理を見いださせる。また、仕事をする能力としてエネルギーを定義し、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさや物体の高さや質量、速さとの関係を見いださせる。最後に、まさつ力や空気の抵抗がなければ力学的エネルギーが保存されることを理解させる。 ○身のまわりにあるいろいろなエネルギーについて気づかせ、それらのエネルギーはどのように移り変わるか理解させるとともに、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解させる。	
			「地球」地球と宇宙 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方 力だめし (1)	(20) 1 5 8 5 1	○太陽や星の見かけの動きから、地球の自転や公転という運動を見いださせる ○太陽の特徴を知るとともに、太陽系は銀河系に属すること、銀河系の外には別の銀河が多数存在することを理解させる。 ○太陽系の天体の特徴を知るとともに、惑星の動きや見え方、月の満ち欠けと日食・月食について理解させる。
	7	「環境」自然と人間 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして 力だめし (1)	(28) 1 5 5 4 8 4 1	○植物、動物および微生物を栄養摂取の面から相互に関連づけて捉えるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いださせる。 ○学校周辺の身近な自然環境について調べ、人間の生活が自然環境に影響を及ぼしていることを理解させるとともに自然環境を保全することの重要性を認識させる。 ○日本の自然について、今まで学習してきたことを思い出させ、さらに地域の自然を調査し、自然からの恵みと災害についての理解を深めさせる。自然現象の監視や防災・減災などについても調べ、自然との共生の在り方について考えさせる。 ○科学技術の発展の過程について、どのようなものがあるかを理解させ、さまざまな科学技術の利用によって人間の生活が豊かで便利になったことを認識させる。	
			3年間の復習 発展的問題演習	12	
				156	
	後 期	10			
		11			
		12			
		1			
		2			
	3				

教科名	年間授業時数	学年
音楽	39	3
授業形態	指導者名	
前期:一斉授業 後期:一斉授業	川上 由紀	

教科書(発行所)	中学生の音楽2・3下 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)
教科書以外の教材(発行所)	音楽のハーモニー2・3下(正進社)

目標	音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を養う。		
学習のねらい	<p>1 歌唱 曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌う。</p> <p>2 器楽 楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫し表現する。 全体の響きに調和させて演奏する。</p> <p>3 創作 楽器の特徴を生かした旋律を作り、表現する。 表現したいイメージや曲想を持ち、自由な発想による創作表現をする。</p> <p>4 鑑賞 音と音との関わり合いや、速度や強弱の働きによって生み出される曲想の変化を感じ取る。音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術との関わりも理解し聴く。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽のハーモニーやプリント等から出題します。	
	範囲(予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	花、花の街、ポレロ、ブルタバ、リコーダーの奏法 等
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
	学年末考査	能、早春賦、尺八音楽、帰れソレントへ、Let It Be 等	
評価の観点・ 評価の方法	<p>・評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とします。</p> <p>・具体的な評価は、普段の授業への取り組み(授業態度、授業プリントや音楽ノートの提出状況やそれらの記述内容、創作活動での作品やその過程での取り組み方 等)、定期考査、実技テスト(リコーダー、歌唱)から総合的に行います。</p>		
先生からアドバイス	<p>・みなさんの身の回りには、たくさんの音や音楽であふれています。まずは、聞こえてくる音に耳を傾けてみましょう。そして、心地が良いな、心が動かされるなど感じる音や音楽を見つけてみてください。</p> <p>・音楽の世界はとても広く、そして奥が深いです。様々な音楽に興味を持つこと、また、「音楽のしくみ」を知ることで、音楽とより楽しく、より豊かに関わるすることができます。音楽の授業にも、興味関心をもって、積極的に取り組んでみましょう。</p> <p>・音楽の授業は週1回です。1回1回の授業を大切にするためにも、準備物を忘れないようにしましょう。提出物も確実に出しましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	日本語の歌の良さや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう ・「花」	4	・歌詞の美しさや旋律の特徴に関心を持ち、イメージを持って歌唱表現を創意工夫する。
	5	・「花の街」 音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう	5	
	6	・「ポレロ」 ・「ブルタバ」 音階の特徴及び音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう	6	・音階の特徴を生かし、表現を工夫しながら旋律を創作する。
	7	・My Melody <第2回考査>	6	
	9	曲想や語感を生かして、歌唱表現を工夫しよう ・「帰れソレントへ」	4	・旋律の特徴を生かし、フレーズを考えながら歌う。
	5 ～ 3	リコーダーに親しもう *この題材は練習曲を継続して行う。		アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけ正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
	後期	10	能の特徴を理解し、その魅力を味わおう ・「敦盛」	4
		ポピュラー音楽の特徴を理解し、その魅力を味わいながら歌おう ・「Let It Be」	2	
11		日本の伝統音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう ・「巢鶴鈴慕」	4	・尺八音楽の特徴や背景を理解し、その良さや美しさを味わいながら聴く。
12		トーンチャイムで合奏を楽しもう ・クリスマスソングの合奏	2	・トーンチャイムの音色を味わいながら合奏を楽しむ。
1		日本語の歌の良さや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう ・「早春賦」	2	・歌詞の美しさや旋律の特徴に関心を持ち、イメージを持って歌唱表現を創意工夫する。
2		仲間とともに、表情豊かに合唱しよう (卒業式に向けて) <学年末考査>	6	・歌詞の内容や曲想を味わうとともにパートの役割を理解し、曲にふさわしい表現を仲間と一緒に工夫して合唱する。
3				
		総時間数	39	

教科名	年間授業時数	学年
美術	39	3
授業形態	指導者名	
一斉授業	森 邦生	

教科書（発行所）	美術2・3上 学びの探求と未来 美術2・3下 学びの実感と広がり （日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	<p>描く活動・作る活動いずれも経験し、ものをつくり出す喜びを実感することで、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく意欲と態度を高める。</p> <p>また鑑賞の能力を高め、美術文化についての理解を深めるとともに、個性豊かな美術の能力を高める。</p>		
学習のねらい	<p>1 絵画・彫刻などの活動を通して 二年間の経験をもとに、造形的な視点で対象を深く観察する力と、自己をより深く見極めて表現する力を身につけ、意図に応じて豊かに発想し構想する能力を身につける。</p> <p>2 デザイン・工芸などの活動を通して 題材と素材を総合的に考え自分のテーマを生み出し、色彩や技法を使って効果的に表現する。また複雑な制作過程を順序立て、意欲的に見通しをもって進める。</p> <p>3 鑑賞 日本及び諸外国の美術遺産を鑑賞し、その特質や文化や伝統などについての理解や見方を深め、美術を通じた国際理解を一段と深める。また自分との関わりを見つけ、表現活動に反映させる。</p>		
定期考査	出題方針	授業で制作したことや説明した内容、教科書・美術資料・教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	岡山の伝統工芸、うちわ制作、鑑賞問題
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
学年末考査	色の働き、抽象表現、彫刻、鑑賞問題、実技問題		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、造形的な知識及び技能の習得、創造的な思考・判断・表現の能力、創作活動に主体的に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>○準備物や授業での態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・見通しを持った創作活動など制作過程での観点別達成度、作品の完成度、感想文による鑑賞能力の3つのポイントを統合して評価する。</p>		

<p>先生からアドバイス (予習・復習・授業の 受け方など)</p>	<p>今年度は義務教育としての最後の美術です。各課題のテーマは、伝統工芸や抽象表現と結びつけながら構想し、独特な材料を使い複雑な制作過程の中で表現します。 創作に打ち込む中で、自分の内面を深く見つめ、時間をかけてじっくりと追求する面白さを味わって欲しいと思います。 3年間の集大成となるような、自分の分身のような作品を、楽しみながら造っていきましょう。</p>
--	--

年間授業計画表 (45分授業)				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	<p>「伝統工芸を味わう」(鑑賞) ・岡山の伝統工芸の歴史や制作過程、使う人を楽しませる工夫などについて知る。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統文化のよさや美しさ、先人の工夫などに関心を持ち、日常生活で生かすことの喜びや価値を味わう。</li> </ul>
	5	<p>「風に想いを乗せて」(デザイン・工芸) ・岡山の伝統工芸の技法を応用したオリジナルうちわを制作する。</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏や風を題材にイメージを広げ、題材や用途、材料の特性、制作順序などを総合的に考えデザインを発想する。</li> <li>・ 制作過程を考え、見通しを持って制作する。</li> </ul>
	6	<p>《第2回考査》</p>		
	7	<p>「生活の中の色の働き」(鑑賞・デザイン) ・色の配色による感じ方の違いを知り、意図に応じて色を使いこなすことを学ぶ。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活の中の色の働きに目を向け、色の効果に興味関心を持つ。色の効果を取り入れ、意図にあったデザインを構想する。</li> </ul>
	8	<p>「絵画の中に入ってみよう」(鑑賞・デザイン) ・絵画を鑑賞し、そこから読み取った物語の中に自分を登場させ、chromebookを活用して作品を作る。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者の成り立ちや意図や画面構成の工夫を読み取り、そこに自分がどう参加するかイメージする。</li> <li>・ 班で役割分担を決め、ディスカッションしながら画面構成を工夫する。</li> <li>・ ICTを意図に沿って活用できるようにする。</li> </ul>
		<p>「抽象絵画の世界」(鑑賞)</p>		

後 期	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な抽象画に触れ、自分なりの感じ方で読み取る。また見方による感じ方の違いを楽しむ。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>抽象絵画の歴史を知り、作品から自分が感じたことを手掛かりに鑑賞の仕方を探る。</li> </ul>
	11	<p>「イメージを形で表現しよう」(彫刻)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の内面をテーマにした抽象的な石彫を制作する。</li> </ul>	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の内面を見つめ、気持ちや感情から主題を生み出し、抽象的な形に簡略化して表現する。</li> <li>立体としての塊や量感と空間との関係を意識しながら、意図に合った表現方法を工夫する。</li> <li>刃物の使用に注意し、リスクを回避する作業を心がける。</li> </ul>
	12	《学年末考査》		
	1	「自分をつくっているもの」(絵画または立体)		<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの自分の内面を形作ってきたものに想いを巡らせ、それらを構成して記念碑的な作品にする。</li> </ul>
	2		6	
3				
		総時間数	39	

教科名	年間授業時数	学年
保健体育	保健 20 時間 体育 97 時間 計 117 時間	3
授業形態	指導者名	
2 クラス合同・3 学年合同（縦割り）	内藤 貴子・鈴木 浩司	

教科書（発行所）	中学校保健体育（大修館）
教科書以外の教材（発行所）	体育実技書（学研）

目 標	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程をとおして、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技術等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって運動を親しむとともに健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。</p>
学習のねらい	<p>《体育分野》</p> <p>1・体づくり運動        自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する        ① 自己の体に気付く        ② 自己の体の調子を整える        ③ 仲間と交流する</p> <p>2・器械運動        自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう</p> <p>3・陸上競技        速く走る・遠くへ（高く）跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう</p> <p>4・球技        集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう</p> <p>5・武道        自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする</p> <p>6・ダンス        自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする</p> <p>7・体育に関する知識        各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する        体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。        また、運動の心身にわたる効果について理解する</p> <p>《保健分野》</p> <p>1・健康な生活と病気の予防        健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする        ア・健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。        または、主体の要因と環境の要因が関わりあって発生すること        イ・健康の保持増進には、年齢・生活環境等に応じた食事、運動、</p>

	<p>休養、及び睡眠のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。</p> <p>ウ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。</p> <p>エ・感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。</p> <p>オ・健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することがあること。また、医薬品は正しく使用すること。</p> <p>カ・個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取り組みを密接なかかわりがあること。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する	
	範囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	体づくり運動・陸上競技・球技・保健等
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
学年末考査		保健・球技・武道・陸上競技等	
評価の観点・ 評価の方法	<p>・評価の観点は、①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>《体育分野》</p> <p>①運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための倫理について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けているか②自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えているか③運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしているか</p> <p>・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価していく</p> <p>・毎時間が評価の対象であり、学期に数回の技能テストも行う</p> <p>《保健分野》</p> <p>①個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身につけているか②個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えているか健康を大切にし、自他の健康保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしているか③健康を大切にし、自他の健康保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしているか</p> <p>・評価の方法は、定期考査、ノート提出、レポート提出、出席状況に等により総合的に観点別に評価していく</p>		
先生から アドバイス (予習・復習の 方法、授業の受 け方、ノートの 取り方など)	<p>《体育分野》</p> <p>・更衣を早くし、授業には遅刻しない</p> <p>・自己健康管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る</p> <p>・忘れ物をしない</p> <p>《保健分野》</p> <p>・提出物は必ず出す</p> <p>レポート・ノート等の点数の配点は大きいので気をつける</p> <p>・忘れ物をしない</p>		



年間授業計画表

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	・体づくり運動・体ほぐしの運動	9	・自己の体に気付き、仲間と交流する ・互いに協力しながら、体力を高める	
	5	・ダンス（フォークダンス）	4	・互いに協力しながら練習を行う。上級生と下級生の交流を深める	
	6	・陸上競技（短距離走・リレー）	1 4	・安全に留意し、基本技術を習得する ・お互い協力しながら、手際よく測定できるようにする ・生活の中で、スポーツが果たす役割を理解する ・安全に留意し、基本技術を習得する	
		・体育理論	4		
	7	・球技（バスケットボール）	1 2	《第2回考査》	
		・球技（バドミントン）	1 2		
		種目選択 ・武道（剣道）、球技（テニス）	1 5		
	後期	101	・健康な生活と疾病の予防	2 0	・生活の中での生かし方を理解する
			種目選択 ・武道（剣道）、球技（テニス）	1 2	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う
		12	・陸上競技（長距離走）	1 3	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う
1	・陸上競技（長距離走）	1 3	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする		
	種目選択 ・器械運動（マット） 陸上競技（ハードル・走り幅跳び） ダンス（現代的なリズムのダンス）	1 4	・生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする ・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う ・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。また、チーム内での役割分担を行う		
3	《学年末考査》				
総時間数			117	体育 97時間 保健 20時間	

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）	20	3
授業形態	指導者名	
一斉授業	木挽屋 菜摘	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目 標	<p>実践的・体験的な学習活動を通してエネルギー変換及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。</p>		
学習のねらい	<p>C エネルギー変換の技術  (1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  ア 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギーの変換や伝達等に関わる基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解すること。  イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。  (2) 生活や社会における問題を、エネルギー変換の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  ア 安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができること。  イ 問題を見いだして課題を設定し、電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。  (3) これからの社会の発展とエネルギー変換の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。  イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、技術・家庭総合ノート、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲  (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	エネルギー変換の技術 ・エネルギーの変換と利用・機器のしくみと保守点検
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
学年末考査	情報の技術 ・身の回りにあるコンピュータ制御・プログラムの作成 エネルギー変換の技術 ・エネルギーの変換と利用		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、授業中での作品、技術・家庭ノート、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、ものづくりや情報に関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につける学習です。</p> <p>技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身につけることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につけましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	○エネルギー変換の技術 ●エネルギー資源の利用 ・エネルギーとエネルギー変換 ・燃料を利用した技術	3	・さまざまな機器を通してエネルギーとエネルギー変換を理解する。 ・エネルギー資源の種類、利用方法を理解する。 ・エネルギーを有効に活用するためには、エネルギー変換効率を高める必要があることを知る。
	5	・発電と送電のしくみ ・エネルギー変換と効率		
	6	●電気の利用 ・電気エネルギーの特徴	3	・電気エネルギーの変換のしくみを理解し、適切な利用方法を知る。
	7	●機器の安全な利用と保守点検 ・電気機器の構造 ・電気機器の安全な利用 ・電気機器の保守点検	2	・電気機器の点検について知り、安全な利用方法について理解する。 ・電気機器の手入れや点検について知り、事故防止の具体的な方法を身に付ける。
	9	●エネルギー変換を利用した問題解決  《第2回考査》	5	・はんだごてを用いて、安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができる。
後期	10			
	11			
	12	●運動エネルギーの伝達 ・力の伝達 ・動きを変化させるしくみ	5	・運動の伝達について、かみ合い・摩擦、リンク機構、スライダクランク機構、カム機構とその仕組みを理解する。 ・動力伝達のしくみについて、種類や使用例を知る。 ・速度伝達比、トルクと馬力について知る。 ・リンク機構、カム機構について種類や使用例を知る。
	1	・力や運動を保存するしくみ  《学年末考査》		
	3	●これからのエネルギー変換の技術	2	・これからの社会の発展とエネルギー変換の技術の在り方を考える。 ・生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解する。 ・技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。
		総時間数	20	

教科名		年間授業時数	学年
技術・家庭科（家庭分野）		19	3
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		小山有紀	

教科書（発行所）	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野（開隆堂）

目 標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする 実践的な態度を養う。</p>		
学 習 の ね ら い	<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(2) 幼児の生活と家族</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。</p> <p>(イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。</p> <p>(イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。</p> <p>B 衣食住の生活（住生活）</p> <p>(6) 住居の機能と安全な住まい方</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。</p> <p>(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。</p> <p>イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。</p>		
定 期 考 査 評価の観点・ 評価の方法 目 標	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題する。	
	範 囲 (予定)	第2回考査	・住居の機能と安全な住まい方
		学年末考査	・幼児の生活と家族 ・家族・家庭や地域との関わり
学 習 の ね ら い	<p>・評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3点とする。</p> <p>・授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。</p>		
定 期 考 査	<p>・忘れ物をしない。・時間を守る。 ・人の話を集中して聞く。</p> <p>・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。</p> <p>・自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	○家庭生活と消費 ①消費生活のしくみ	1	・物資とサービスの特徴がわかる。 ・消費生活のしくみがわかる。
	5	②家庭生活における収入と支出	1	・収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。
		○購入・支払いと生活		
	6	①いろいろな購入方法	1	・店舗販売と無店舗販売の特徴がわかる。
		②購入前に知っておくこと	1	・売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め、理解する。
	7	③いろいろな支払い方法	1	・即時払い、前払い、後払いの特徴を理解し、利点と問題点を理解する。
		④情報を活用した上手な購入	1	・生活情報の収集や活用のしかたを理解し、目的に合った商品を選ぶことができる。
		○消費者被害と消費者の自立		
		①なくならない消費者被害	1	・消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。
		②消費者を支えるもの	0.5	・消費者を支えるしくみについて理解できる。
	③消費者の権利と責任	0.5	・消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。	
<第2回考査>				
前期	8	○幼児の生活と家族		
	9	①幼児のころと今の自分	1	・幼児期への関心をもつ。
		②幼児の体の発達	1	・幼児の身体の発育について、発達の方向性や順序性ととともに、個人差があることを理解する。
		③幼児の心の発達	1	・幼児の言語・認知・情緒・社会性等の発達について理解する。
	④発達にとってのおとなの役割	1	・子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。	
後期	10	⑤遊びが必要なわけ	1	・自分の実践的・体験的な活動を通して、幼児にとっての遊びの意義を理解する。
		⑥遊びを支える環境	2	・幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。
	○家庭生活と地域のかかわり			
		①家庭生活と地域での活動	1	・家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。
		②多様な人びとが暮らす地域	1	・地域で多様な人びとが暮らせるための工夫を理解する。
	<年度末考査>			
		③地域に暮らす高齢者	1	・地域で活動する高齢者や、見守りが必要な高齢者などさまざまな高齢者がいることを理解する。
		④高齢者とのかかわり	1	・地域で活動する高齢者や見守りが必要な高齢者とのかかわりを考える。
総時間数			19	

教科名	年間授業時数	学年
英語 (英語・英語C)	195	3
授業形態	指導者名	
習熟度別による少人数授業および一斉授業	下嶋麻衣子 高木由貴 Proebstle Andrew Michael Lucian Glenn	

教科書 (発行所)	NEW HORIZON English Course 3 (東京書籍)		
教科書以外の教材 (発行所)	LISTENING TRIAL 15 (文英堂) NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 2 (Z会出版) NEW TREASURE 文法問題集2 (Z会出版) 実力練成テキスト3 (文理) チャンクで英単語 Standard (三省堂)		
目標	外国語 (英語) によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと (やりとり) (発表)」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の4技能5領域 (「聞くこと」「話すこと (やりとり) (発表)」「読むこと」「書くこと」) をバランスよく学習する。</li> <li>・250語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。</li> <li>・質問・応答・紹介・交渉・説明・論理的な自己表現などができる。</li> <li>・200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。</li> <li>・基本的な文法・語いを使って、300語程度のまとまった英語を書くことができる。</li> </ul>		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASUREの内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehensionは必ず行う方針である。	
	範囲 (予定)	第1回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 7 検定教科書内容
		第2回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 8~9 検定教科書内容
		第3回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 10 検定教科書内容
		第4回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 11 検定教科書内容
学年末考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 12 検定教科書内容		
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。 具体的な評価は、定期考査、ファイル、単元テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>中学3年生では、習熟度別 (希望による) 少人数授業を展開します。標準コースではこれまでの学習と同様に、基礎・基本の定着を目指した演習や言語活動などを通して学習を進めていきます。発展コースではより細かな文法指導やその文法を駆使したより発展的な言語活動などを通して、言語使用場面に合わせて学習したことを実践的なものにまで高めていきます。</p> <p>どちらのコースにも共通して大切なことは、①予習②授業③復習のサイクルを確立することです。家庭学習は高校進学を視野に入れ、1時間以上を目標に取り組みましょう。まず、①予習では、単語調べ、文法問題集 (Basic) をできる範囲でやってきましょう。予習の段階で疑問に思ったことは授業で確認し、それでも不明な点は授業後に先生に確認しましょう。②授業では、言語活動中は音を大切にしっかりと発音することです。五感をフル活用しましょう。また、積極的な挙手を期待します。一方、書く練習やまとめの作業では静かに書くことで整理します。活動の1つ1つにねらいをもち、けじめをつけて学習しましょう。さらに、ペアなどによる学び合いの姿勢も大切に、お互いに高め合っていきましょう。その日学習したことは必ず③復習します。文法問題集 (Standard) をしたり、教科書を音読したり、文法事項をじぶんでまとめたりするなどの努力を欠かさずしましょう。<u>この毎日の積み重ねが定着につながります。</u> 週5時間の授業と毎日の家庭学習 (1時間以上) をフル活用して、実践的な英語力を身につけていきましょう。</p> <p><b>No Pain, No Gain.</b> (努力なくして成功なし) 一緒にがんばりましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容			時数	
前 期	4	<b>Unit 0</b> Three Interesting Facts about Languages <b>Unit 1</b> Sports for Everyone	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年の振り返り</li> <li>現在完了 継続</li> </ul>	2年時の復習 <b>Stage2</b> <b>Lesson 7</b> Food Waste in Japan	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在完了形(完了・結果経験・継続)</li> <li>現在完了進行形</li> </ul>	22
	5	《 第1回考査 》		《 第1回考査 》		22
	6	<b>Unit 3</b> Animals on the Red List	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在完了 経験 完了</li> <li>不定詞 副詞的用法(原因)</li> </ul>	<b>Lesson 8</b> Skating for Peace	<ul style="list-style-type: none"> <li>名詞</li> <li>不定代名詞</li> <li>再帰代名詞</li> </ul>	5
		<b>Stage Activity 1</b> My Activity Report	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経験を振り返って活動報告を発表する</li> </ul>			22
		《 第2回考査 》		《 第2回考査 》		
	7	<b>Let's Read 1</b> A Mother's Lullaby	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の变化や登場人物の心情を読みとる</li> </ul>	復習		4
	8	《 サマーチャレンジ 前半 》 [ 夏季休業中 ] 《 サマーチャレンジ 後半 》				
	9	<b>Unit 4</b> Be Prepared and Work Together	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑問詞+不定詞</li> <li>It is ~(for ...)to 不定詞</li> <li>want...to~</li> <li>道案内</li> <li>how to ~</li> </ul>	<b>Lesson 9</b> Thank You, Kaka Murad	<ul style="list-style-type: none"> <li>前置修飾と後置修飾</li> <li>分詞の形容詞用法</li> </ul>	22
		<b>Daily Scene 4</b>				
後 期	10	<b>Unit 5</b> A Legacy for Peace	<ul style="list-style-type: none"> <li>分詞の後置修飾、間接疑問文</li> </ul>	<b>Further Reading ①</b> Can Magnets Help the Growth of Soybean Seeds?		22
	11	《 第3回考査 》		《 第3回考査 》		
	11	<b>Stage Activity 2</b> Discover Japan	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本や郷土の文化などを紹介する文詳しい情報を加えながら書く</li> </ul>	<b>Lesson 10</b> A Jaded Man for the First Time	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係代名詞(主格・目的格)</li> </ul>	22
		<b>Unit 6</b> Beyond Borders	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮定法(仮定法過去)</li> <li>I wish~</li> </ul>	<b>Lesson 11</b> AI and Man Working Together	<ul style="list-style-type: none"> <li>不定詞の発展的用法</li> <li>It ~ (for-)to...</li> <li>疑問詞+to</li> <li>too ~ to.../ enough to~</li> <li>原形不定詞</li> </ul>	22
	12	《 第4回考査 》		《 第4回考査 》		
	1	[ 冬季休業中 ]				
	2	<b>Stage Activity 3</b> Let's Have a Mini Debate	<ul style="list-style-type: none"> <li>主張とその理由を明確にしながらか述べたりすることができる</li> <li>速読(スピーチ原稿を読む)</li> </ul>	<b>Lesson 12</b> A War Storyteller from the Himeyuri Student Corps	<ul style="list-style-type: none"> <li>間接疑問、付加疑問</li> <li>感嘆文</li> <li>仮定法過去</li> </ul>	22
		<b>Let's Read 3</b> A Graduation Gift from Steve Jobs		<b>Further Reading ②</b> A Woman Who Changed People's Old Ideas		
	3	《 学年末考査 》		《 学年末考査 》		5
	《 スプリングチャレンジ 》					
	総時間数				190	

第3学年 道徳年間指導計画

学校の教育目標	科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性をもち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成	教科書 検定教科書「自分をのばす」
学年の重点項目	広い視野をもち、何事にも最善を尽くし理想の実現を目指して自己の人生を切り開く意欲と態度を育てる。	

月	主題名	内容項目	資料名	ねらい
4	オリエンテーション	-	オリエンテーション	生徒が主体的に楽しく道徳学習に取り組めるよう、意欲を引き出す。
	責任ある判断	A-(1)	リクエスト	自分たちの都合が優先される立場から他者の立場を考慮し、自覚的に責任の大きさに気づき、主体的に考え、信頼、協力の実践意欲を養う。
	家族の深い愛情	C-(14)	スダチの苗木	両親の苦労を知って心を震わせる筆者の心情を共感的に理解することを通して、自分を育ててくれている家族の愛情の深さに気づき、家族を敬愛して、家族の一員としてよりよい家庭生活を築こうとする道徳的意欲を養う。
5	寛容で謙虚な心	B-(9)	山寺のびわの実	さとと竹庵の話を知り、深々と頭を下げる基太の心の変化について考えることを通して、寛容で謙虚な心のよきや大切さに気づき、相手の誕生や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方を受け入れていく道徳的意欲を養う。
	自制する心	A-(2)	独りを構む	一人暮らしを始めた筆者がぶつかった「どきんとすること」を手がかりに、「独りを構む」ことの意義を考えることを通して、節制に心掛けて、心身の健康や安全と調和のある生活を築いていくこととする道徳的実践意欲を培う。
	生命の尊さ	D-(19)	誰かのために	残りわずかな時間を娘のために必死に生きようとする母の姿から、「誰かのために生きる」ことについて考えることを通して、生命の尊さを有限性や関係性など多面的・多角的に理解し、かけがえのない生命を尊重する道徳的心情を育む。
6	希望をもって生きる	A-(4)	優しいうそ	交通事故による苦難を乗り越え、「語り部女優」として復帰を決意した筆者の生き方について考えることを通して、勇気と希望をもって生きることの大切さに気づき、より高い目標に向かって、困難や失敗を乗り越えていくこととする道徳的実践意欲を培う。
	役割と責任の自覚	C-(16)	監督がくれたメダル	監督やとのやり取りを通じて、嫌だったノックを丁寧に打つようになった筆者の心の変化について考えることを通して、自己の所属する集団の意義や自らの役割を理解し、責任を自覚して集団生活の充実に努める道徳的実践意欲を培う。
	いじめを許さない心	C-(11)	卒業文集最後の二行	けさへのいじめを悔やむ筆者の心情について考えることを通して、いじめを許さない心で仲間や友人と向き合い、いじめを正しく理解し、いじめを断絶させる道徳的意欲を養う。
7	人と人とのつながり	B-(6)	原稿用紙	お世辞になっていた謝辞の書きかたを受け、話を聞いた筆者の心情について考えることを通して、互いに支え合う関係性のよさに気づき、思いやりの心と感謝の念による人と人とのつながりを大切にすることとする道徳的意欲を育む。
	自然との共生	D-(20)	樺葉のこと	樺葉の人による自然との共生の取り組みを知り、自然の恵みについて考えることを通して、自然の恵みや自然環境を大切にすることの意義を認識し、自然環境を大切にすることとする道徳的実践意欲を培う。
	自己の向上を図る	A-(3)	ぶひない心-松井秀喜-	自分で考え、工夫しながら努力を繰り返してきた松井秀喜さんの生き方について考えることを通して、自己を見つめ、自己の向上を図っていくこととする道徳的実践意欲を培う。
9	生きる希望と喜び	D-(22)	ひまわり	美しい景色を目にしたことをきっかけに、絶望を乗り越え、誇りをもって生きようとする筆者の生き方の変化について考えることを通して、自らの弱さや謙遜と戦い、自己を奮い立たせて、生きる希望や喜びを見出す道徳的心情を育む。
	心から信頼できる友達	B-(8)	ライバル	友情をめぐめる良心の阿賀に苦しみながらも、それを乗り越えていくこととする啓介と康夫の心情を共感的に理解することを通して、心から信頼できる友達とのよきや大切さに気づき、友達と互いに励まし合い、高め合う関係を築いていくこととする道徳的実践意欲を培う。
	自己の行為の責任	A-(1)	ピヨ子	加奈子が美空に送った手紙が返ってきたことと起きた問題について考えることを通して、自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつ道徳的意欲を養う。
10	礼儀の美しさ	B-(7)	席を譲られて	高橋健二氏の礼儀の美しさと、それを目撃した筆者の礼儀について考えることを通して、相手の人格を認め、尊敬や感謝の念を伝える礼儀のよきや大切さに気づき、時と場合に応じて適切な言動をとうろうとする道徳的実践意欲を培う。
	勤労の尊さや意義	C-(13)	てんびんばかり	「使われないものがある」という父の言葉を聞いて筆者が気づいたことについて考えることを通して、勤労の尊さや意義を認識し、勤労を通じて社会に貢献しようとする道徳的実践意欲を培う。
	善意や支えへの感謝	B-(6)	読み物資料 帰郷	人々の善意や支えに応えようとする態度を養う。
11	信頼と敬愛の念	B-(9)	アイツの遊園地	遊園地をめぐる真一と夏樹の思いを共感的に理解し、よりよい関係を築いていくことについて考えることを通して、異性間においても信頼と敬愛の念に基づき、互いを向上させていく人間関係を築いていく道徳的実践意欲を培う。
	思いやりの心	B-(6)	月明かりで見送った夜汽車	I先生の気持を察して電気を消すY先生と、それに対して声をあげ拍手を送る先生たちの思いについて考えることを通して、相手の重荷にならない思いやりのよきや大切さに気づき、深い理解と共感に基づく思いやりの心を大切にすることとする道徳的意欲を育む。
	支え合う家族の絆	C-(14)	母と子のロードレース	アスリートとしてのリタを省みず、母の生体移植を行なうが、ロードレースに挑戦し続けた宮澤崇史さんの思いについて考えることを通して、家族からの支えや無私の愛情に気づき、家族の一員としての自覚をもって、互いに支え合う家庭生活を築いていく道徳的実践意欲を培う。
12	生命倫理をめぐる葛藤	D-(19)	トナー	二つの救済の道徳的葛藤がある倫理に感じ方や考え方が異なり、生命倫理の問題について考えることを通して、生命の尊さを多面的・多角的に理解し、生命の尊厳を守る道徳的意欲を養う。
	法やきまりの意義	C-(10)	元さんと二通の手紙	二通の手紙を受け取った元さんが「この年になって初めて考えさせられること」について考えることを通して、法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守り、規律ある安定した社会の実現に努める道徳的意欲を養う。
	差別や偏見のない社会の実現	C-(11)	虹の国-ネルソン・マンデラ-	ネルソン・マンデラが目指した社会の在り方について考えることを通して、無知から生まれる偏見や不寛容な心など人間の弱さや謙遜に気づき、正義と公正さを重んじ、差別や偏見のない社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。
1	理想を追い求める	A-(4)	風に立つライオン	「風に向かって立つライオンでありたい」と願う「僕」の生き方について考えることを通して、人生の理想を追い求めることの大切さや素晴らしさに気づき、強い意志と希望をもって人生を切り拓いていく道徳的実践意欲を培う。
	よりよく生きる喜び	D-(22)	二人の弟子	純白の百合を見て涙を流す修行の思いについて考えることを通して、自己の弱さや謙遜を乗り越えようとする人間の強さや気高さに気づき、人間としてよりよく生きる喜びを見出していくこととする道徳的実践意欲を培う。
	感動、畏敬の念	D-(21)	ほっちゃん	ほっちゃんのおさまである筆者がほっちゃんを引継いだ男の子の思いを共感的に理解することを通して、大なる自然の偉大さや生命の尊さを感動や畏敬の念をもつ道徳的心情を育む。
2	道徳的自覚に支えられた生き方	A-(1)	カントとルソー	カントがルソーの『エミール』から学んだことについて考えることを通して、人間が本来持つべき良心の尊さに気づき、自律の精神を重んじる道徳的心情を育む。
	心の通い合い	B-(6)	ある元旦のこと	挨拶に深く頭を下げる少年を目撃した筆者の感動を共感的に理解することを通して、人と人との心の通い合いのよさに気づき、人は互いに支え合っていることを自覚し、思いやりと感謝の心をもって他者に接していくこととする道徳的実践意欲を培う。
	国と国との友好の絆	C-(18)	海と空-樫野の人々-	エルトルール号の話を知った「私」の思いについて考えることを通して、国際的な相互扶助のよきや大切さに気づき、世界の平和と人類の発展のため、他国の人々と支え合い、助け合おうとする道徳的実践意欲を培う。
3	公徳心	C-(10)	ベビーカー論争	ベビーカー論争の経緯について考えることを通して、社会生活における公徳心の大切さに気づき、道徳性とそれを支える公徳心を大切に、規律ある安定した社会の実現に努める道徳的意欲を養う。
	伝統文化を守り受け継ぐ	C-(17)	運命の木-姫路城の大柱-	姫路城の大柱に込められた人々の思いを共感的に理解することを通して、先人の思いと伝統文化の大切さに気づき、おぼろげに文化の継承と文化の創造に貢献しようとする道徳的実践意欲を培う。
	社会のつながり	C-(12)	読み物資料 橋が飛び立つ日	まわりの人々とのつながりをもち住みよい社会を目指す姿勢を養う。
4	生命尊重の念	D-(19)	高砂丸とボトマック川のこと	船の命を救おうとして亡くなったアランドとクヌッセンの行為を称えようとする人々の思いについて考えることを通して、生命の尊さを認識し、自他がかけがえのない生命を尊重する道徳的意欲を養う。
	郷土の発展に寄与する	C-(16)	先年先のふるさとへ	「いのちの石」に込められた女子中学生の生徒たちの思いについて考えることを通して、郷土を愛し、主体的に発展に努めることとする道徳的実践意欲を培う。
	社会参画	C-(12)	招集通知-あなたが裁判員になるとき-	みんなの話を聞いて裁判員制度について考えた恵美が気づいたことについて考えることを通して、主体的に社会と関わることの大切さに気づき、社会参画の意義と社会参画の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。
5	真理を探究する態度	A-(5)	ショーペンハウアーとニーチェ	ショーペンハウアーとニーチェのエピソードを手がかりに、「自分で考えること」の大切さについて考えることを通して、主体的に真理を探究し、問い続ける道徳的意欲を養う。
	人間としての誇りに誇らる生き方	D-(22)	二度とない人生だから	「二度とない人生だから」の謙虚な思いを受け、自分の生き方を考える学習を通して、気持よく生きる自分の人生に誇りを持って、よりよい人生を切り拓いていく道徳的実践意欲を培う。
			1年間のふり振り返り	



教科名		年間授業時数	学年
サイエンス（課題研究）		39	3
授業形態	指導者名		
一斉授業	奥野晃司 筒井梨沙 松末昌樹	中川一輝 小山有紀 武下晃慎	下崎麻衣子 鈴木浩司 木挽屋菜摘 板野正幸 平井敬貴

目 標	<p>科学が社会生活において果たしている役割を理解させ、自然に対する関心を高め目的意識をもって実験・観察・数学的活動を行うことにより、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、実験・観察等から生じた疑問を学んだ知識やそれらを組み合わせることにより解決させるなど課題解決的な学習を取り入れることにより、自然の事象や現象についての理解を深め、科学的思考力や想像力を養う。</p>
学習のねらい	<p>①課題研究において探求内容を社会科学、人文科学、自然科学に分類し、文献の調査の方法を身につける。 ②文献調査をヒントに探求課題を設定し、課題意識を持たせるとともに、様々な解決方法を考えさせることによって論理的な思考力を身につける。 ③論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ④研究発表会、論文記録集を作成し、3年間のサイエンス・グローバル・AMAKI学・教科の学習の集大成とする。</p>
評価の観点	<p>①課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身についている。 ②課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりすることができる。 ③形式的思考操作ができる。 ④他者の意見を参考にして論理的な思考や判断をし、自分の考えを論述することができる。 ⑤自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。</p>
先生からアドバイス (授業の受け方、ノート の取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業へ参加し、自ら学び、自ら表現する力を身に付けましょう。</li> <li>・課題探求の過程では、答えが一つには決まらない課題も出てきます。柔軟な発想や調査活動を通して様々な可能性をしっかりと考えましょう。</li> <li>・仲間や先生との議論を通して、批判的、複眼的、分析的に考え、自分の考えを論文で発表しましょう。</li> <li>・グローバルで学習している言語技術の手法とサイエンス学習した科学分析方法を利用して、自分が研究したい内容（各教科で得た知識）について意見が言えたり、文章が書けたりするようになりましょう。</li> </ul>

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>方針説明</li> <li>ゼミ開講・ゼミ内の計画方針</li> <li>テーマ・リサーチクエスト探し</li> <li>テーマ・リサーチクエストの決定</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ内の年間計画を立て、組織的、効率的に活動できる環境を設定する。</li> <li>担当教師としっかりとディスカッションをする。</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ・リサーチクエスト検討会</li> <li>文献調査など各自の活動</li> <li>探求課題の解決のために研究計画を立てる。</li> <li>探求課題の解決のために調査やヒアリングを行う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献調査から導かれた新たな課題について個人で探求活動をすすめる。</li> </ul>
	6		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導担当者がアドバイザーとなり、探求方法などについて計画を立てる。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究中間報告</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒアリング調査、質問調査、インタビュー調査や実験など体験を通して課題を解決していく。</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査、研究</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>文献やインターネットを使って情報を収集することができる。</li> </ul>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果をまとめる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を人にどのように伝えるかその内容のまとめ方を習得する。</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文作成の準備をする。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>Thinking Science、グローバルの授業で学習した科学的分析方法や、パラグラフィティングの手法を用いて調査探求をした内容について論文を作成する。</li> </ul>
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>粗原稿提出</li> </ul>	4	
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文修正</li> </ul>	3	
後期	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究論文集の作成</li> <li>ポスターの作成</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションの技能を身に付ける。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表準備</li> <li>課題研究発表会</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の成果をまとめる</li> <li>1年間の研究成果を発表する。</li> </ul>
		総時間数	39	